

へりくだりの高電圧

訳注

- (1) 本文中で太字となっている部分は原著者が大文字または太字を使用している部分である。
- (2) 本文中で斜体字となっている部分は原著者が斜体字を使用している部分である。

B. R. ヒックス

目 次

(章)	(ページ)
第 1 章 霊的成長の踏み石—へりくだり	5
第 2 章 へりくだりの条件	13
第 3 章 へりくだりは自我に対する軽蔑をつくり、 自我を否定する力を与えてくれる	48
第 4 章 へりくだりは神から離れては何もできない という悟りをもたらす	52
第 5 章 へりくだりは自分のことではなく、 イエスのことを語る力を与える	56
第 6 章 キリストのへりくだりが私たちの心に みことばに従う力を与える	60
第 7 章 へりくだりは人間の心にあるプライド の深さを啓示する	66
第 8 章 へりくだりの高電圧のうちに成長する	70
第 9 章 へりくだりは神の恵みを得る鍵である	80
第 10 章 栄光の前にはへりくだりがある	91
第 11 章 へりくだりは魂をイエスと結びつける	95
第 12 章 へりくだりは花婿のへりくだりの道 に対する愛を与える	101
第 13 章 へりくだりの高電圧の例	115

へりくだりの高電圧

第1章

霊的成長の踏み石—へりくだり

へりくだりは神の御前で私たちの態度であり、柔和さは人の前で私たちの態度です。柔和の実は人の目に見えますが、へりくだりの霊は神がご自身のためにとっておかれる貴い宝石です。へりくだりは人間の魂を神の御前で何物でもないもの、神の御前に役に立たないものとして、またそれによって栄光と力と誉れが主にあることを示すようにさせる貴い力を得ることを許された霊的な人にものみ楽しめます。もし、私たちが神の恵みと知識において成長したいのであれば、主へりくだりの貴い石を置いていただかなければなりません。私たちはその上でキリスト・イエスの高さや深さを昇ったり降りたりすることができるのです。

へりくだりという言葉には、低くする、卑しめる、自分に対して低い評価を下す、謙遜する、服従する、抑制する、低い所に連れて来るといった意味があります。この態度で私たちは神の御座に近づかなければなりません。また、この態度をもって御父の前で私たちの場所をとらなければなりません。

霊的な成長に導く踏み石としてへりくだりを求めましょう。なぜならば、私たちの兄弟姉妹に勝つためではなく、私たちが賜物や祝福を受けるためでもなく、それが神のみことばであり、みことばであるからです。私たちが神を喜ばせ、恵みと知識において成長するには、純真さと愛を持つことです。そうすれば、神が私たちを選び、召して下さったことを大きなことでも小さなことでもできるようになります。愛する皆さん、報酬は大きなことでも小さなことでも神のみことばを行うことにあります。もし神が私たちに賜物を与

えられ、大きなことをするように召して下さったのならば、成長して神の私たちに對するみこころを成就できるように、恵みと知識とに至る踏み石を伴うへりくだりを求めましょう。もし、神が小さなことをするように私たちに導かれたなら、神において成長し神のみこころを成就するために、やはりへりくだりの貴い石を求めると同じ法則に従いましょう。報酬の秘訣は神のみことばを行うことであり、高められたり、へりくだることではありません。喜びの秘訣は神のみことばを行うことであり、したことの大小ではありません。へりくだりを求めましょう。へりくだりの方法が啓示され、教えられるための霊のゆえに、また、私たちが完全に成長するという神のみことばのゆえに熱烈に祈りましょう。

ですから、私たちは、キリストについての初歩の教えをあとにして、成熟を目指して進むではありませんか。死んだ行ないからの回心、神に對する信仰、きよめの洗いについての教え、手を置く儀式、死者の復活、とこしへのさばきなど基礎的なことを再びやり直したりしないようにしましょう。

(ヘブル 6:1,2)

へりくだりが霊的な高みに至る踏み石であることがわかったのですから、それを受けられるように求めましょう。それを見つけられるように求めましょう。私たちに神の宝庫の扉が開かれるようにたたきましょ。そうすれば、霊的な建物の土台の上に建てるへりくだりの貴い石を神から得られることでしょう。キリストが土台であり、**彼**のうちに全てのへりくだりの貴い石が宿っています。

もし、私たちが自分たちの霊的な家に喜びと満足の霊を宿らせたいなら、全ての物を神のみこころにゆだね、服従させることを学ばなければなりません。私たちは、主を愛する者には全てのことが相働いて益となることを教えてくれる神の貴いみことばに服従しなければなりません。私たちの人生の状況や環境を神にゆだねるということは、へりくだりの幼稚園のレッスンです。自然的や霊的な望みや欲望を満たすために骨を折る魂は、まだこのへりくだりにおける初歩のレッスンも学んでいません。その魂はへりくだりの最も素晴らしい宝石をまだ発見していないのです。私たちが不満や争いに支配され

ている限りは、ただ神の御前に何もない者として、何にも価値のない者として、何の利益も与えない者として、自分の中になにも持っていない者として出ていく時のへりくだりの喜びを経験できず、知ることもできません。これがイエスが山上の垂訓のなかで情け深く教えられた貧しい霊であり、パウロがピリピ書で啓示していることです。

乏しいからこう言うものではありません。私は、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。私は、貧しさの中にある道も知っており、豊かさの中にある道も知っています。また、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。私は、私を強くくださる方によって、どんなことでもできるのです。

(ピリピ 4:11-16)

パウロは霊的な宝庫のなかで、へりくだりの宝石において富んだ者となっていました。パウロは、御父がお許しになった霊的であろうと自然的であろうとどのような状況にあっても神の御前にどのようにして満ち足り、へりくだり、服従するかを学んでいました。多くの時、彼は貧しく、物質的な必要がありました。心の中のへりくだりの花から来る満足の甘い香りを楽しんでいました。時には大きな霊的患難に会いましたが、このへりくだりの花からくる満足の香りは、決しておとろえることはありませんでした。神の御前でのへりくだりは全ての満足の土台です。

多くのクリスチャンはこれらのへりくだりの初歩のレッスンについて無知なので、彼らはいつも生活の状態について不平を言い、これらの不満と争いのぶどうの木は人間の心の中のプライドの種から出てきたことがわからないのです。これと同じ種はサタンが自分の座を神よりも上に置こうとした時に、サタンの心の中にありました。なぜ、サタンは自分の座を神よりも高くしようとしたのでしょうか。それは、高ぶった心の中で自分が高い所に値し、地位を変える価値があると考えたからです。何度私たちはこれと同じ霊を持って、この世から、友人から、生活の環境から、もっと良い取扱いをうける価値があると考えたことでしょうか。私たちは神の力強い御手の下にへりくだり、私たちの問題を神の方法で解決していただくことに信頼し、神が最

も良いと知っている方向に導いてくださることに対して、反抗的で喜べないことがしばしばあります。

へりくだりの土台の中のこれらの宝石が私たちの霊の心の啓示されますように。私たちは人生の嵐の中で、神がお許しになったどんな試練も喜んで耐えなければなりません。へりくだりは貴い道です。それは平安の道であり、主に服従する道であり、主を喜ばすことを求める道です。私たちが自分自身を喜ばせようとした瞬間に、イエス・キリストからくる愛とへりくだりの歓喜は減っていくことがわかるでしょう。これは、多くの人によって求められる道ではありません。それは賢い人や分別のある人には隠され、赤ん坊や心のへりくだった人に啓示されます。それは言い表せない喜びと栄光に満たされ、多くの時、微笑まれたイエスの顔の光で、魂が愛と喜びと平安で張り裂けそうになります。これは神のうちに魂が失われる道です。これは魂が神のみこころを行うことを喜ぶ道です。これは魂がいつも自分の肉でなく、愛する方を喜ばせることを求める道です。これは、キリストが通られたのと同じへりくだりの道ではないでしょうか。私たちにとって、キリストが御父を喜ばせるためにどの程度まで進まれたかを理解するのは難しいことです。キリストはご自分の殻から出られました。すなわち、御父のふところを持っておられた地位と栄光を捨て、地上に来て受肉されたのです。これは御父のみこころを行う喜びのゆえでした。

信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをもともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。

(ヘブル 12:2)

愛する皆さん、主の喜びは十字架とその全ての恥辱の中にあつたわけではなく、たとえこのような道に導くものであっても、それは、御父のみこころを行うことであつたのです。主は、試練と屈辱とへりくだりの道をゆりかごから墓場まで歩むために、ご自身の地位を降りられ肉体をとられました。私たちがへりくだりの道において、この同じ道筋をたどるのが御父の計画でありみこころです。御父は、私たちが肉を克服することによって自分自身のあ

り方を捨て、肉的な自我の中に生き、自然界の者に楽しみや愛情を求めないことを願っておられます。しかし、この肉の人の死をとおして、私たちは神の霊の中に住み歩むことができ、この世においても超自然的な生活を持てるのです。これはパウロの経験でした。彼はキリストとともに十字架にかけられました。(すなわち肉の人において。)彼はまだ生きてはいたけれども、それは彼の中に生きていたキリストの超自然的ないのちでした。主の霊だけがこのことについて私たちの心に教えることができるのです。それはこの世の人の教えを越えています。

へりくだりが霊的成長のより高い領域への踏み石であるように、世的な名誉、楽しみ、富、そして栄光は霊的成長のつまずきの石となります。これらを所有することによってプライドが成長してきます。まさにこのことのゆえに神はヨブをふんの山の上に置かなければならなかったのです。ヨブは、神にあって成長している限りにおいて正しく、潔白な人でしたが、彼の心はプライドに満ち、霊の目は盲目でした。それゆえに、そのようなものがなぜ彼に降りかかってきたのかについて不平を言いましたが、その理由はわかりませんでした。しかしながら、彼が神と一対一で対峙させられた時、自分が神の栄光と比較すれば何と墮落した被造物であるかを理解し、自分自身を見て忌み嫌いました。ヨブは、この世の名誉、富、栄光はつまずきの石であり、へりくだりこそが神にあるより大きな経験と成長への踏み石であることを発見したのでした。愛する皆さん、クリスチャンが肉と世的な心に何も悪い所を見つけないのは、彼らがイエス・キリストとそのへりくだりに一対一で対峙させられたことがないからなのです。みことばをとおして啓示される神のへりくだりは、肉的な人が味わうにはとても苦く、消化しにくいものです。それにもかかわらず、もしわたしたちが信仰によって歩み、主のみことばに従うならば、神の霊をとおして、私たちの口においしく、甘いキリストのへりくだりの性質を啓示してくださることを理解するでしょう。それゆえに、私たちは世の富とこの世のふんのつまずきの石を拒否し、へりくだりの貴い踏み石を選ぶのです。人間の理性は、もし人生において成功したいなら、この世が与える名誉と栄光と富を求めなければならないと教えます。このことについて、神のみことばは何と異なった取り扱いをしているのでしょうか。伝導者の書の作者は、日の下の楽しみ、歓楽、富、力、知恵、知識とその他

の全ての物を試してみましたが、彼は、「すべてがむなしなことよ。風を追うようなものだ。」と言っています。別の言葉で言えば、これら全てのものは一時的なもので、過ぎ去っていきます。私たちはそれを墓に持って行くことはできません。それらは神を離れては空しく、中身の無いものです。しかし、神の子供たちが一時的なものを貯えるために何と苦勞していることでしょう。それらは、神がイスラエルの民に、満たされないと教えたものです。マタイの6章で、イエスはゆりの簡単な例をとおして、真の栄光と富を描写されています。イエスは言われます。「明日のことについて思い煩わないで、野のゆりのようになりなさい。野のゆりは助ける者もなく、養分と水と太陽の光、それに葉が呼吸するための空気さえも御父に完全に依存しています。」へりくだりと依存の何と素晴らしいひな型なのでしょう。これがイエスが私たちの霊的な宝庫に与えられたい貴い宝石なのです。エデンの園における人間の状態は、神への完全な依存でした。彼が罪を犯し、魂の貴い楽園を失った時に、彼は独立した者となりました。そこで神は自分で生活させ、独立の苦みと誤りを人間に教えました。人間が自分の独立によって得ることのできる全てのこの世の名誉、楽しみ、富、栄光はつまずきの石以外の何物でもありません。イエスは言われました。「ソロモンの王としてのこの世の栄光は、野のゆりの一つほどにも着飾ってはいません。なぜなら、ゆりは完全なへりくだりの栄光と創造者への完全な依存によって、着飾っているからです。」確かに、へりくだりの踏み石は、ゆりが知っている完全な依存の場所へ私たちが登って行くことを助けます。イエスはこの神へのへりくだりと依存の素晴らしい歩みを私たちが知り、私たちが野のゆりのようになることを助けて下さいます。

神が私たちに与えられる最大の試みは、患難や貧しさではなく、この世の名誉と富です。というのは、このような外部のものによって、心が極端に欺きに満ち、即座に独立の道へと引かれて行くからです。これは、悪魔がイエスにしかけた巧妙なテストの一つでした。悪魔は、イエスをへりくだりと依存の道からはずれさせたいと思い、石をパンに変えるように誘いました。マタイの6章で、イエスは「全ての異邦人は肉の人の必要と満足を求めるのに忙しいが、私たちは神を**第一**に求めます。そうすれば、これら全ての物がそれに加えて与えられます。というのは、私たちの天の父は私たちの必要に気

をとめられない方ではなく、全てをいつでも与えて下さることのできる方であるからです。」と言われました。ある人は、「私は神が許された名誉と富を持っています。」と言うかもしれません。愛する皆さん、神のみことばの権威によってこう言いましょう。あなたは神の全ての武器を持つ必要があります。あなたの魂と霊は、古いヘビのプライドから守られる必要があるからです。それは、傲慢とプライドの毒を入れるために、どこでもあなたをかむために待っています。それによって、神との霊的成長を妨げるためです。

私たちのうちに働くへりくだりに従うことを喜びとし、私たちの心に主の貴い愛を増やして下さるように愛する救い主に願い求めましょう。愛とへりくだりはパートナーであり、一体となって私たちの霊的な成長を促します。まず、愛が来て私たちの魂にへりくだりたいという願いを起こさせます。それからへりくだりがやって来て、パウロのように私たちも叫ぶまで、私たちの主イエスに対する愛の炎を燃え立たせてくれます。「私は、キリストとその復活の力を知り、またキリストの苦しみにあずかることも知って、キリストの死と同じ状態になり、」（ペリピ 3:10）。

愛とへりくだりの働きによって私たちは迫害されたり、悪意に満ちた不当な取り扱いを受けた時にも、真に主の前で喜べる段階まで霊的に成長することができます。私たちは自分の宮を裁き、迫害や試練を受けることにより、成長の度合いを知ることができます。もし、私たちの成長が小さいならば、私たちが過小評価した人々に対して激しく不当な不満が生まれます。また、私たちが軽蔑した人や敵から受けた取り扱いに対して、魂の中に大きな動揺が起こります。ダビデはこのような時、こう言っています。「私の魂よ、なぜおまえは心の中で動揺しているのか。」別の言葉で言えば、ダビデの魂には敵や軽蔑する人から受けた取り扱いに対して、大きな動揺があったということです。イエスの貴いへりくだりの霊は、決して動揺することがありませんでした。また、言い返すこともありませんでした。すべてのことは相働いて益となることをわかっているのです。そのような状況の中で御父の取り扱いの前に喜んでへりくだり、へりくだりのいけにえさえも、神にささげることができることを喜びました。愛する皆さん、私たちのイエスに対する愛は、へりくだりに対する愛、患難に対する愛、死に対する愛によって測ることができます。低い、へりくだりの場所で、私たちは神の心にまで引き寄せてく

下さるイエスのへりくだりの踏み石を見い出すことでしょう。主のへりくだりが、霊的な身丈において私たちを成長させて下さいます。へりくだりは、神のみことばにおける力と啓示を増加させます。貴いイエスよ、へりくだりの踏み石を、私たちの心の中に増し加えて下さい。